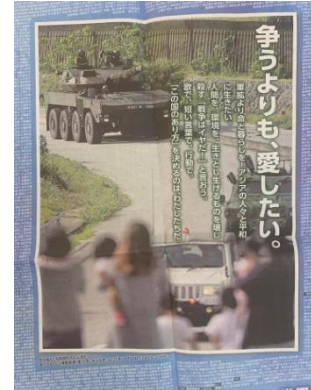


沖縄意見広告運動(第 14 期)

写真は「沖縄意見広告運動(第 14 期)」から。昨年につづいて、私もほんの少しだけ協力したので、6日に事務局から連絡がきた。緊迫する沖縄に対し、何もできないので、せめて意見広告運動に加わりた

いと考えた。
今年4日に、琉球新報・沖縄タイムス・東京新聞・南日本新聞に見開き2ページ全面カラーで掲載された。まだ新聞で確認できてはいないが、小さな活字で私の名前もどこかに記されていることだろう。



争うよりも、愛したい。
軍拡よりもいのちと暮らしを! アジアの人々と平和に生きたい。

人間を、環境を、生きとし生けるものを壊し殺す「戦争はイヤだ!」と言おう。

歌で、短い言葉で、行動で。

「この国のあり方」を決めるのは、わたしたちだ。

「台湾有事」などを口実にして、万が一にも戦争が起きれば、沖縄はふたたび最前線の戦場になり、はかり知れない犠牲者が出る。

「ミサイルよりも外交を。沖縄を、島々を戦場に
するな」



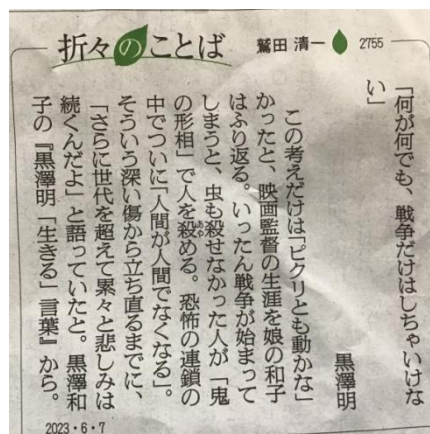
7日の朝日新聞朝刊、鷺田清一「折々のことば」に目がとまった。

「何が何でも、戦争だけはしちやいけない」

黒澤明

この考えだけは「ピクリとも動かな」かったと、映画監督の生涯を娘の和子はふり返る。

恐怖の連鎖の中でついに「人間が人間でなくなる」。そういう深い傷から立ち直るまでに、「さらに世代を超えて累々と悲しみは続くんだよ」と語っていたと。黒澤和子の『黒澤明「生きる」言葉』から。



(2023年6月9日)